

平成21年度 直轄請負工事の事故発生状況（3月末速報値）

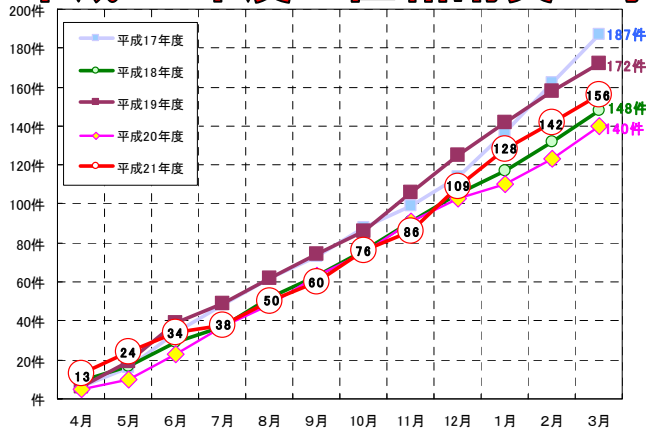


図-1 月別発生事故件数（累計）[3月末速報値、港湾空港分含む]

- ◆図-2は月別の発生件数をグラフに示したものです。
- ◆平成21年度は特に12月、1月に事故が多発しました。
- ◆例年6月に事故発生件数が増加する傾向があり、これは工事着手が集中するためと考えられます。
- ◆工事着手時についても、事故対策について十分周知、実践を行ってください。
- ◆なお、図-1及び図-2については、港湾空港分（10月に2件）を含みます。

- ◆平成21年度における発生事故件数は、図-1の月別発生事故件数（累計）のとおり、156件でした（速報値、もらい事故含まず）。もらい事故を含めると、241件発生しています。
- ◆前年度（平成20年度）は前年度比で約19%の減少でしたが、平成21年度は増加に転じており、前年度比で約10%増加しています。
- ◆11月までは例年を下回る状況でしたが、12月以降急増し、前年度を上回る結果になりました。

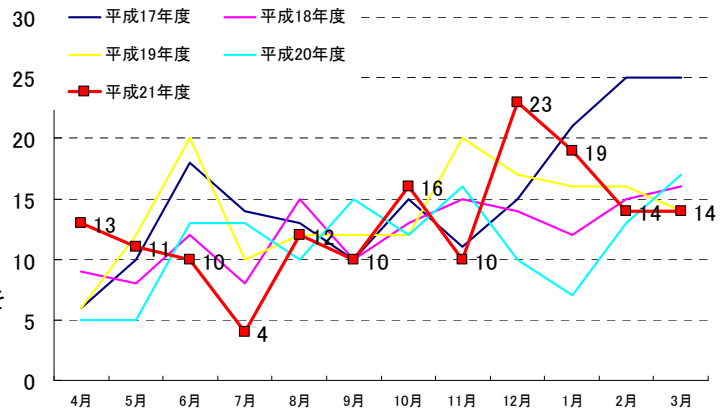


図-2 月別発生事故件数[3月末速報値、港湾空港分含む]

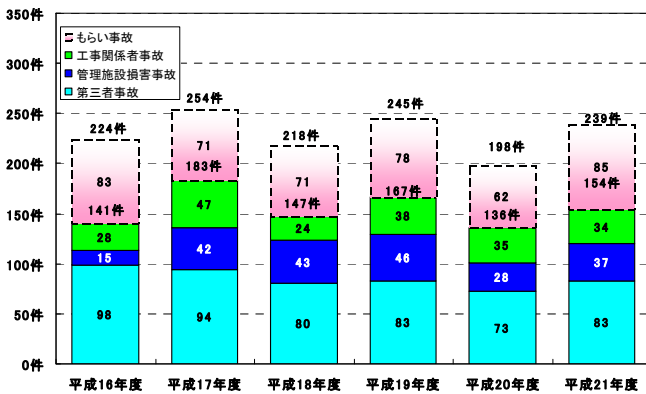


図-3 種類別事故発生件数

- ◆図-3は発生事故について、工事等が起因し工事関係者が被災した事故<工事関係者事故>、第三者及び管理施設に損害を与えた事故<第三者損害事故>及び<管理施設損害事故>、第三者が起因して工事関係者が損害を受けた<もらい事故>に区分しています。
- ◆管理施設損害事故が前年度28件より9件増加し37件発生しています。
- ◆第三者損害事故は前年度より10件増加し83件発生しています。
- ◆もらい事故が前年度（平成20年度）比で約37%増加しています。

昨年度発生した事故（第三者損害事故）

- ①高架下高さ制限バーに接触した事故<第三者損害事故>
 - ◇橋梁点検車が制限を超えて高架下を通過しようとしたため発生。
 - ◆JR運休5本、23本最大20分遅れ。
 - 車両高は事前に確認する。
 - 徐行を怠らない。
- ②地下の信号ケーブルを損傷した事故<第三者損害事故>
 - ◇不要管と判断し、通電確認をせずに撤去を行った。
 - 撤去の際は事前確認する。



昨年度発生した事故（工事関係者事故①）

- ラフタークレーンが転倒した事故<工事関係者事故、死亡事故>
 - ◇ラフタークレーンにて2階梁型枠を吊り込み、作業中にラフタークレーンが転倒、作業員が下敷きになり、死亡した。
 - ◇クレーンの作業能力（作業半径）の限界を超えて作業を行っていた。
 - ◆作業員は型枠の下敷きになり、頭を打った。
 - 作業内容周知を徹底する。
 - 過負荷防止装置の事前確認を行う。



（裏面につづく）

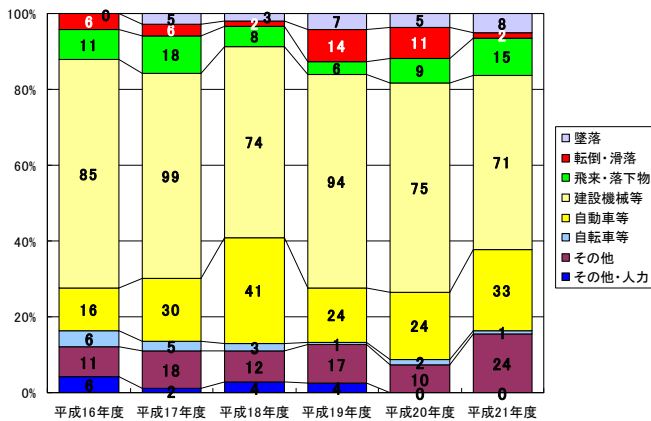


図-4 発生形態別事故発生件数

◆図-4は、発生事故について発生形態別に区分し、件数及び割合を示したものです。

◆建設機械等による事故は前年度より4件減少していますが、全体に占める割合は約46%と依然大きいです。

◆自動車等による事故は全事故発生件数に占める割合が昨年度より大きくなっています。

◆転倒・滑落事故は前年度に比べて激減していますが、墜落事故については、前年度より3件増えて8件発生しています。

昨年度発生した事故（工事関係者事故②）

①足場から転落した事故<墜落、死亡事故>

◇コンクリート撤去作業中、端部へ歩いていった作業員の戻りが遅く、重機オペレータが確認に行ったところ、12m下で作業員が倒れているのを発見した。

○高所作業時は親綱を設置し、安全帯を使用するなど、墜落事故防止対策を徹底する。

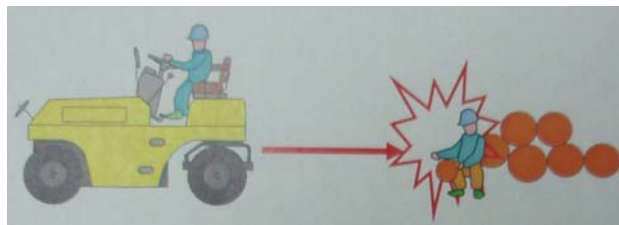
②振動ローラに巻き込まれた事故<建設機械等による事故>

◇締め固め作業中の振動ローラが、後方でセメント空袋処理を行っていた作業員を巻き込んだ。

◆後方確認が不十分だった。

◆作業エリア、立入禁止の明示が不十分だった。

○目視による後方安全確認、作業エリアの明示等を行う。



◆図-5は工事関係者が被災した事故（33件）を発生形態別に区分したものです。（平成21年度、もらい事故含まず）

◆形態別で見ると、墜落または飛来・落下によるものが最も多く、両方を合わせると全体のおよそ半数となっています。

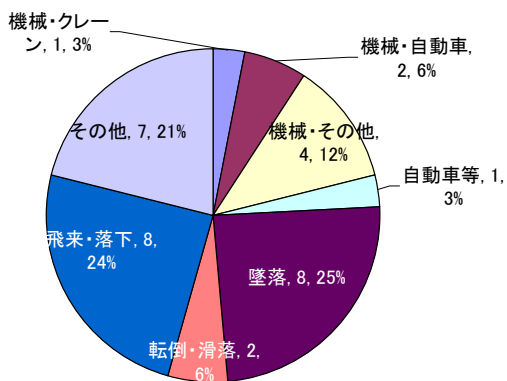


図-5 被災者事故原因別グラフ

◆平成21年度は、被災者数全体については前年度より減少して40名となっていますが、死者数は4名と前年度よりも増加しています。

昨年度発生した事故（工事関係者事故④）

①出水で作業員が流された事故<死亡事故>

◇浚渫船に乗り込もうとした際、河川の急な流れで通船が横転。浚渫船下部に入り込むように転覆し、1名が流された。

○気象情報を適切に入手し、急な増水対策等に備える。

事故防止対策（案）

- 責任者監視の下での作業の徹底
- 指示事項の遵守
- 安全パトロール・安全点検の徹底
- 危険予知訓練等の徹底
- 作業員同士での注意喚起

昨年度発生した事故（工事関係者事故③）

①ブラケットが外れて作業員が落下した事故<墜落>

足場を支えていたブラケットが外れ作業員が3m下に落下。ブラケットの取付が不十分であった。

②鉄板が倒れて作業員が死亡した事故<飛来・落下、死亡事故>

転倒防止の木材が折れ、カルバートを閉塞していた鉄板が倒れ作業員が土嚢と鉄板に挟まれた。

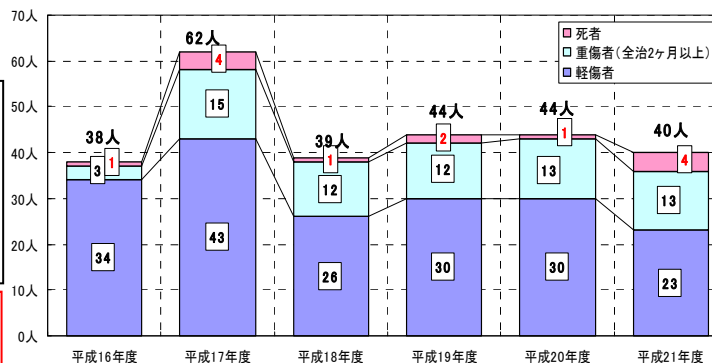


図-6 被災者数経年変化

事故のない安全な現場を目指そう!!